

I 教育目標

人間尊重の精神に基づき、自らの幸福を求めるとともに、平和な社会の発展に貢献できる人間の育成を目指し、本校の教育を設定する。

- 思いやりにあふれる人
- 自ら学び、行動する人
- たくましく生きる人

II 経営方針

目指す学校像	◎落ち着いた、品位と活気のある学校 ○子どもたちの笑顔があふれる学校 ○自分の夢に向かって努力できる学校、努力する生徒を応援する学校 ○生徒の主体性を育む学校
目指す生徒像	○基礎学力を身に付け、主体的に学ぶ生徒 ○他者との違いを認め、互いに尊重しあう生徒 ○規範意識・自分の意見を持ち、自ら考え、判断し、行動できる生徒 ○心身ともに健康に生活しようとする生徒
目指す教師像	◎授業を大切に考え、日々研鑽・改善を行う向上心のある教師 ○公教育の推進に励み、生徒の考えを引き出し、個性を認め伸ばそうとする教師 ○多様性を認め、子どもたちの成長とともに向上できる教師 ○社会情勢の変容を把握し、広く豊かな教養と教科等に関する専門的知識をもつ教師
経営理念	1 こうとう学びスタンダード（ネクストステージ）を基に、基礎・基本の充実を図り、「主体的、対話的で深い学び」を推進する。 2 学校全体が、子どもたちの主体的な活動にあふれ、子どもたちが通いたい、保護者・地域が通わせたいと思える魅力ある学校づくりを推進する。 3 特別支援教育・不登校対応・いじめ対策等の近年の教育課題を本校の教育課題としてとらえ、その解決に取り組む。 4 コミュニティスクールとして、地域の子供たちを地域とともに育てるという考えのもと、地域の力を活用し、学校の教育活動の推進を図る。 5 学校と家庭・地域が連携することで、働きがい改革（働き方改革）を推進し、目の前の生徒たちの教育に教員が取り組むことができる学校づくりを推進する。

III 経営目標

重点領域1		確かな学力の定着・向上
中期経営目標	保幼小接続・小中連携教育の推進を行う中で、小中連携（一貫）カリキュラムの充実を図り、学びのエリアの子どもたちの確かな学力の定着・向上を目指す。	
短期経営目標	1 探究的な学びの充実を図り、論理的に説明する力を育成する。 2 主体的・協働的に課題を発見し解決できる力を育成する。 3 コミュニケーションを図りながら、合意形成する能力を育成する。	
項目	努力指標（教師側）	成果指標（こども側）
1	小中9年間を見据えた単元計画の連携を図り、学習者用端末を有効に活用した家庭学習の仕組みを構築する。また、各種コンテストを意識した授業・学習課題について工夫する。	家庭学習を定期的に行う生徒の割合が、全体の70%以上となるようにする。 各種コンテストにおいて、90%以上の達成率が全体の6割以上となるように目標を設定する。

2	総合的な学習の時間を活用し、探究的な学びを深める授業を行う。各教科においても、探究的な学びを少しずつ取り入れていく。	学年の総合的な学習の時間での発表や、大中祭での舞台発表を充実させる。また、発表後に仮説を立て、探究的な学びを深めていく。
3	生徒の読み解く力の育成に力を入れ、読書習慣の充実や、授業でのめあての表示と振り返りの徹底を図る。	読書習慣が身についた肯定的な割合は70%以上、朝読書は90%の生徒が取り組むことを達成目標とする。

重点領域2		生徒の主体性の育成
中期経営目標	主に行事等を活用し、その目的や課題を考えさせ、課題解決を通して、自分たちで学びを深める場所づくりを行う力を育成する。	
短期経営目標	1 生徒会活動・学級活動においてルールメイキングの取組ができるよう、校内研修や相互授業参観の仕組みを確立する。 2 主幹教諭を中心とした授業革新、教育相談のスキル向上を図り、教員の指導力向上を行う。	
項目	努力指標（教師側）	成果指標（こども側）
1	大中祭に向けて、大中祭ルールメイキング等を意識した議題を設定し、生徒の主体性の構築につなげていく工夫に取り組む。	大中祭のルールメイキングに取り組ませ、自分たちで魅力ある行事を創造させる。
2	授業が生徒の主体性を育成する場になるよう、授業改革に取り組み、わかる授業を発信していく。教育活動が生徒の主体性にあふれたものになるよう生徒理解に努めていく。	授業に主体性をもって参加し、振り返りで理解できた部分、理解できなかった部分を整理し、アウトプットできるようにする。

重点領域3		他者を理解する心の育成
中期経営目標	登校することができない生徒への働きかけを充実させ、登校できない生徒を半減させる。	
短期経営目標	1 合理的配慮委員会の活動を推進し、特別支援教育への理解を図り、学級における生徒理解の充実と、その共有を図る。 2 「特別の教科 道徳」の考え、議論する活動のなかで、他者の考えを知り、自らの考えを見つめなおし、多様性を認められる心の育成につなげる。 3 地域へのボランティア活動の機会を増やし、郷土愛精神を育成する。	
項目	努力指標（教師側）	成果指標（こども側）
1	子どもたちの意見を傾聴し、スキルを向上させ、個に応じた支援につなげられる実践力を養い、特別支援教育を推進する。	相談できる教員がいるとのアンケートにおいて、80%以上の生徒が肯定的な答えになることを目指す。
2	「特別の教科 道徳」でコミュニケーション力の向上を図る。また、すべての道徳教育において生徒一人一人の考えを引き出し、ともに考えられるようにする。	道徳授業の振り返りを行い、自身の道徳的価値観の成長を感じるとともに、生活の中での道徳的実践力を向上させていく。
3	コミュニティスクールを活用し、地域のボランティア活動に生徒一人一人が、進んで参加できる仕組みづくりのための連携を行う。	校内、地域等のボランティア活動に自ら参加し、他者への思いやりや、多様性を認めた思いやりの心を育成する。

重点領域4		豊かな人間性と社会性の育成
中期経営目標	生徒・教職員ともに人権感覚を向上させ続け、人権を意識した教育活動ができる学校づくりを行う。	
短期経営目標	1 人権教育・道徳教育を基礎とした教育活動の実践。 2 いじめ防止の徹底（Action 24 の理解と徹底） 3 あじみこし（挨拶・時間・身だしなみ・言葉遣い・姿勢）＋運動の充実	

項目	努力指標（教師側）	成果指標（こども側）
1	すべての大人・子どもに人権があることを理解し、学校教育活動を実践する意識を高める。	すべての人に人権があることを理解し、多様性を認めた考え、行動ができるように心がける。
2	A c t i o n 2 4に基づいたいじめ撲滅に取り組む。いじめはあるという意識をもち続け、早期発見・早期対応に取り組む。	いじめは絶対に許さないという強い意識をもち、見て見ぬふりをしないという強い心を育成する。
3	あじみこし+を考え、率先垂範すること、生徒とともに活動する意識を高める。	あじみこし+を実践するとともに、学校・学級の課題を解決しようとする姿勢で生活をする。 5分前行動やチャイム着席の徹底を意識して行動する。